

令和 5 年度 学校自己評価システムシート (埼玉県立幸手桜高等学校)

E36

目指す学校像	夢を語る学校・・・卒業後の進路を明確にし、学ぶ意義を理解させる学校 感謝を学ぶ学校・・・地域との連携による体験学習を通じ、人の役に立つ尊さを学ぶ学校 使命感をもって巣立つ学校・・・社会に貢献できる有為な人材を育成する学校
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着を図るとともに、主体的に学ぶ意欲をもった生徒を育成する。 本校の特色・強みを発信するとともに、地域・外部機関と連携した開かれた学校づくりを推進する。 計画的・組織的な進路指導を行い、進路意識を高めて進路希望を実現させる。 規範意識を醸成させるとともに、学校行事や部活動などを通じて実社会的で自立する力を育成する。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	9名

学校自己評価							学校関係者評価		
年度評価目録							年度評価(2月1日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日 令和年月日	
								学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	<p>〔現状〕 進学補講や資格取得のための補習など、教員の献身的な取組により実施されている。朝学習により1限授業へのスムーズな移行・遅刻者の減少にもつながっている。また、校内巡回により授業が時間通りに始められている。一方で、教員の授業改善について生徒からの評価が、年次が上がるに連れ厳しくなる傾向がある。</p> <p>〔課題〕 ・1年次より始まる一人一台端末の導入により、一人一人の習熟度にあった学びの展開を実現する。 ・ICTを活用して、タブレット等の端末を思考のツールとして活用していけるようにする。 ・上位層の更なる学力向上と、下位層へのフォローアップを充実させる。 ・新カリキュラムを踏まえ、生徒の学力向上に向けた授業改善を進めていく。 ・文理系と商業系の特色を出し、系列の特色を生かした進路実現を図る。</p>	<p>○基礎学力の定着と授業改善を推進し、生徒の学力向上を図る。</p> <p>○各教員が自己評価シートに生徒の主体性を育む方策や学力向上のための具体的な授業改善策を明示して取り組む。</p> <p>○育成したい資質・能力、スキルポリシー、評価の観点を周知する。</p> <p>○ICTを効果的に活用した授業に取り組む。</p>	<p>①各年次による巡回指導等を通して、毎時チャイム着席を確認し、規律ある学習環境を確保する。 ②少人数クラス展開や、習熟度授業によるきめ細かな学習指導により学力向上を図る。 ③授業公開週間を活用し、教員相互の授業改善を図る。 ④タブレット端末や、プロジェクトを活用し、生徒の興味や関心を高める授業づくりを推進する。 ⑤一人一台端末の活用により、授業改善及び深い学びへの実現を図る。 ⑥各年次が主体となり朝学習の質を高める。 ⑦1年次においては、ICT教材さららを活用して朝学習の質を高める。 ⑧長期休業中を中心にして、各教科による進学補講、資格取得に向けた補習を充実する。 ⑨各所がスクールポリシーの実現を図る。 ⑩各教科で評価の観点を明確にし、3観点を適切に評価する。</p>	<p>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩学校自己評価アンケートで、学習指導に関する内容の満足度が向上したか。 ②④⑥成績優良者は増加したか。 ②⑧成績不振者は減少したか。 ②④⑥⑨生徒が進路実現をしたか。 ④⑤授業改善の取組が推進されたか。 ⑧進学補講や資格取得のための補習や補充授業等の充実が図られたか。 ⑨⑩各分掌のシートで振り返りをさせたか。 ⑩学習評価が生徒の学習意欲の向上につながったか。</p>					
2	<p>〔現状〕 新型コロナウイルスの影響で学校行事がストップしていたが昨年度はある程度実施することができ、地域のイベントにも参加することができた。また、本校への志願倍率も1.05倍になりよい傾向と捉えている。本校への入学希望者の更なる増加のために取り組んでいく必要がある。</p> <p>〔課題〕 ・「幸手桜で頑張っていきたい」と思っている生徒の数を増やしていく。 ・本校の様々な取組や成果について、積極的に中学生や保護者、県民に発信すること。 ・広報活動を広域的に進め、生徒募集を学校全体で取り組むこと。地域、商工会、大学等との新たな連携を構築すること。</p>	<p>○地域行事への参加と連携による本校教育力の向上、学校説明会等による情報発信の充実を図る。</p> <p>○本校を第1志望とする受験生への丁寧な対応と、積極的な生徒募集活動を展開し、本校志願倍率1.05倍を目指す。</p>	<p>①幸手市や大学との連携を活用し、学習機会を増やす。 ②広報部を中心に中学校訪問や学校説明会等において、学校の特色や系列、そして進路状況等を強調して説明し、具体的な情報発信を行う。 ③HP更新頻度を高め、効果的な情報発信を行う。 ④生徒会や商業系を中心とした地域連携活動を実施する。 ⑤部活動による小学校・中学校・地域との交流を実施する。 ⑥地域の中学校との情報交換の場を活用し、積極的な生徒募集を進める。 ⑦学校説明会・入試説明会等で本校の取組や方針を説明する。</p>	<p>①活動を通して得られた教育力を生徒に還元し、成果を広域に情報発信ができたか。 ②⑥⑦本校志願倍率が1.05倍を超えたか。 ③HPの更新回数やアクセス件数が増えたか。また、様々な組織(年次・分掌・部活動等)で更新する対応ができたか。 ④生徒主体の地域連携活動(文化祭・市民祭りの参加)ができたか。 ⑤マーケティング活動を中心に、地域行事に参加し、地域の活力を本校に呼び込むことができたか。</p>					
3	<p>〔現状〕 早期からの準備やきめ細やかで継続的な指導により大学、公務員、金融等の試験の合格・内定につながっている。このことにより全年度での本校の進路指導に対する満足度が高い水準に達している。</p> <p>〔課題〕 ・会社・進路部・保護者・生徒で面談等を行い就職先を決めたにも関わらず、入社辞退者が出てしまう。 ・インターンシップ等の教育活動により、将来の職業観や就業意欲を高める指導の充実を進めること。 ・進路行事を充実させ、明確な目標設定や資格取得を生徒に定着させる。 ・進路指導満足度を全年度で80%以上にする。</p>	<p>○計画的・組織的な進路指導の実施と生徒全員の進路実現を図る。</p> <p>○生徒のキャリア意識向上のために分掌・年次・教科を横断する体制を構築する。</p> <p>○進路指導のツールを活用する為、教員研修を充実させる。</p>	<p>①手帳による活動の記録を年間を通して習慣化させ、進路活動に役立てる。生徒自身の自己管理能力を高める。 ②進路指導部と年次の連携により、3年間を見据えた進路活動を適切な時期に効果的に実施する。 ③生徒の進路実現に向け、組織的に補習や面接指導等に取り組む。 ④「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」を活用し、自己肯定感を確立させると共にキャリア教育を充実させる。 ⑤各クラス担任がキャリアカウンセリングの面談を繰り返し行い、生徒の進路意識を向上させ、進路決定時のミスマッチを防止する。</p>	<p>①②③④⑤学校自己評価アンケートで、進路指導に関する内容の満足度が向上し、意識啓発に結びついたか。 ①②③④⑤進路決定率が向上したか。 ④「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」が年間計画に基づき、実施できたか。また、生徒の満足度はどうだったか。 ⑤生徒、保護者、担任が三位一体となり、ベクトルを合わせ進路指導を行い、進路実現を果たしたか。</p>					
4	<p>〔現状〕 新型コロナウイルスによる影響のためか、対人関係においてトラブルとなる生徒指導件数が昨年度より増加した。 ・SNSを使ったトラブル等が増えている。 ・毎朝の生徒指導部による校門指導や交通安全指導により、生徒の挨拶の定着率が90%を超えており、この数値を維持していくことが求められる。 ・保護者から、本校への入学に対しての良い評価が全年度で90%を超えている。</p> <p>〔課題〕 ・SNSの正しい使い方の指導を充実させる。 ・「幸手桜で頑張りたい」という強い気持ちを持つ生徒たちを核にして、学校の教育活動の更なる活性化を図る。 ・生徒と保護者で、本校への入学に対しての意識に差が出てきている。 ・生徒が幸手桜への帰属意識を高める。</p>	<p>○規範意識の醸成や基本的な生活習慣の定着に向けた取組を通じて、生徒の自己管理能力を育み、主体的な学校生活づくりを進める。</p> <p>○部活動の活性化を図るため、地域の中学校などとの合同練習や招待試合等を行う。</p> <p>○挨拶の励行と、地域連携事業やボランティア活動を通して人間性豊かな生徒を育成する。</p>	<p>①始業式、終業式、LHR等を利用して生徒指導部を中心にSNSの使い方について指導する。 ②基本的な生活習慣の定着や安心・安全の学校づくりのため、生徒指導部を中心に、携帯安全教室や薬物乱用防止教室、非行防止教室等を実施する。特に、SNSが起因する生徒間トラブルを防止するため、重点的に指導を行う。 ③生徒指導部と各年次の連携による登下校指導や整容指導、PTAと連携した交通安全指導を継続的に実施する。 ④教育相談員、SSW、SCを活用し、カウンセリングマインドを重視した生徒指導を充実させる。 ⑤成果や結果については報道機関への積極的な情報提供を行う。 ⑥部活動で中心的な役割を果たす生徒たちへの帰属意識高揚を図るための激励会を開催する。 ⑦教員が生徒へ積極的に挨拶をする。 ⑧地域の方とのふれあいやボランティア活動を通じた人格形成を図る。 ⑨校長や各主任の講話等で成年年齢引き下げについての情報提供を行う。 ⑩教務部を中心に、皆勤奨励する取組を実施する。</p>	<p>①②生徒指導件数が減少するに至ったか。SNSが原因・関係する生徒間トラブルが減少したか。 ②③学校自己評価アンケートで、基本的な生活習慣及び学習に関する内容の達成状況が向上したか。 ④転退学者数は減少に至ったか。 ⑤⑥3年間継続し部活動を行う生徒が増えたか。 ⑦生徒の挨拶が定着したか。 ⑧人間性豊かな人格形成が図れたか。 ⑨学校自己評価アンケートで成年年齢引き下げへの理解が深まったか。 ⑩皆勤者数を増やすことができたか。</p>					